腹膜透析の情報誌「びびっど」

VIVID



No.98

ホスピタルレポート

公益社団法人 北海道勤労者医療協会
勤医協中央病院



特集

色の力で気分を明るく 似合う色で顔色も明るく！



さつま芋や豆腐
おからを使った簡単おやつ!

PD患者さんのための おいしい献立集 「からだ想いの滋養菓子」



＼オススメ／ 春のコーディネート



日本漫遊

札幌市 AOAO SAPPORO





考えてチャレンジ！ びびっどクロスワード



公益社団法人 北海道勤労者医療協会

勤医協中央病院
「治療の選択肢を広げたい」

札幌駅から雪の北八条通りをタクシーで東に約20分。札幌市北東部の中核病院として地域を支える勤医協中央病院。現在、70名を超えるPD（腹膜透析）患者さんがいらっしゃいます。チーム医療・地域連携の基礎を作られた五十嵐先生を中心に、お話しをお伺いしました。



五十嵐 謙人先生
医員

PDは必然

2017年当時、私は麻酔科の所属でしたが、HD（血液透析）には携わっていました。学会や他院の先生方とPDの必要性の話をする機会が多くあり、PDは当院でも積極的に取り組むべき治療だと強く感じていました。そこで思い切って3年間在籍した麻酔科をやめて、PDに携わるために腎臓内科に転科したんです。最初は院内勉強会を開催するなど、スタッフにPDを詳しく説明し、透析＝HDではなく、PDの選択肢もあるんだという認識を持ってもらうことから始めました。

今、患者さんにPDを含め全ての腎代替療法を提案するのは当たり前のことだと思っています。むしろ今日の日本において医療者が患者さんにこれら全ての療法を提案できていないことが、おかしなことだと感じています。患者さんの状態に応じてPDを選択肢のひとつとして提案することは、必然なんですよね。

在宅治療を支える病院と地域の連携

PDは在宅治療なので、患者さんの家庭環境や生活習慣を知ることが治療を管理するうえでとても重要です。目で見て理解できることは多いですから、コロナ前は看護師と患者さん全員のお宅を訪問していました。

また、高齢患者さんで訪問看護が必要な場合は、患者さんの状態などを病院と訪問看護ステーションと連携しながらオンラインで情報共有できるシステムを導入・活用しています。

今、札幌市内の多くの訪問看護ステーションでPDを診ることができます。最初はどこも受けてくれませんでしたが、訪問看護師さん向けの学習会や連携会議をスタッフに協力してもらい積み重ねた結果、増えていく高齢PD患者さんの大きな受け皿ができました。地域医療・透析医療を支えるうえで、これはとても大きい進歩ですね。

高齢者とPD

高齢者に対するPDは絶対に必要だと思います。高齢者は食べる量も減るので老廃物も少ない。だから生活の質を保ちながら緩やかな透析ができるPDの導入が増えています。

長期HD療養や他の病気で腎不全となった高齢患者さんなどが、最後に自宅で生活したいと希望され、緩和ケアとしてPDを導入する例も多いです。ある患者さんで、家族によるPD手技が困難なケースがありました。そこで3つの訪問看護ステーションに協力してもらい、看護師がPD手技を行う完全アシステッド（補助）PDで、大きなトラブルもなく自宅にて穏やかな看取りができました。患者さんの希望を叶えるために医療者が一丸となり、PDという治療の必要性を再認識する良い経験でした。

北海道のPDとこれから

北海道全体、特に地方の病院がPDを知って患者さんに提案・提供する必要があります。HDの施設がない地域では、40キロ、100キロの距離を週に3回通う患者さんもいます。高齢で具合が悪い場合などはそれも叶いません。そこで、患者さんの負担や意向に沿い「PDがあります」と、どの病院でも提案することができれば、それが透析治療のあるべき姿だと思います。PDの提供自体は道内全体でみるとすごく少ないのが現状で、これから土台を整えていくことが必要です。

当院にいらした北海道北端にある猿払村の患者さんがPDを希望されていたので、村唯一の病院の医師にPD管理をお願いしたことがあります。その医師は腎臓専門医ではありませんでしたが、これを機にPDの連携認定医を取得し奮闘されています。

PD業界はまだ狭いです。だからみんな仲間だと僕は思っています。定期的に集まって話をしますが、患者さんがどういう生活をしたいのかという希望に応じて医療を提供するというその一点だけ見据えて、同じ目標でやっているんだといつも思います。困ったら「どうしたらいい?」と気軽に相談し合います。医者同士の交流は励みになりますね。正直手のかかる治療だなと思いますが、患者さんの望みをかなえる治療として必要なもの。みんなPDを知った方がいいと思います本当に。

先生からのメッセージ

腎不全で透析をはじめとした腎代替療法が必要となってしまっても、患者さん・医療者で話し合い、生活を守ることは可能です。腎不全となっても、「幸せに楽しく生活するためには」ということを皆で考えていきましょう。



患者図書館「こらぼ」

治療に関する本の閲覧・貸出ができ、常駐のスタッフが丁寧に案内をしてくれます。



内科医長 血液浄化センター長

入宇田（いりうだ） 智子先生



腎代替療法には、透析療法であるPD・HDそして腎移植があります。PDとHDのハイブリット（併用）療法もあり、患者さんの状況によって包括的な治療を行っています。

当院の腎代替療法はHD中心でしたが7年前から五十嵐先生を中心に院内や地域のPD体制を整えてきました。現在は常時70名前後のPD患者さんがいらっしゃり、腹膜透析医学会の認定する全国28研修施設のうちのひとつに当院も入っています。

また、地域の慢性腎臓病治療を支えるという点では、なるべく透析に至らないようにするのが究極の腎臓内科としての使命であり目標です。私たちと、一般内科の先生方や近隣の腎臓専門医の先生との連携による早期発見・早期介入のためのネットワークも確立しています。

治療の選択肢が増えるということは本当に素晴らしいことです。患者さんは時間的、体力的にご負担はありますが、人生の中に楽しみを見つけていただけたらと思います。困ったことや不安なことがあっても、医療者や介護者など関係する方々からのサポートがあります。患者さんも、ご家族も、どんどん頼ってもらえたらと思います。

PDの立ち上げ

HD患者さんと、2名ほどのPD患者さんしかいなかった血液浄化センターに五十嵐先生が入り、2018年からPDの導入体制が勢いよく動き始めました。1年後には療法選択外来（PD、HD、移植の内容を説明し患者さんが自分に合う治療法を選ぶ手助けをする）を立ち上げ、現在では透析導入前の全患者さんが受診し、ご自身にあった腎代替療法を選択しています。

療法選択は患者さんの今後の人生に大きく関わります。少しでも不安や悩みを解決できるよう、患者さんには「焦ることはないからゆっくり考えてください」と必ずお伝えしています。何かしらの治療を選択して、これからの生活について、考えるきっかけになるといいかなと思います。



袖城（そでじょう） 久美さん
看護師

チームで取り組む

PD患者さんが増加した時期、特殊な事例やトラブルも増えました。解決のために、先生も巻き込んで「さてどうする?」と考える。どんなことがあっても、患者さんがどうしたら楽しく生活できるかをチームで考え、挑戦を重ねて大変な時期を乗り越えて今があると感じています。その背中を見て、新しく入ったスタッフも育っていってますね。

病棟から見えるPD

昨年、PD外来から病棟主任に異動になりました。病院全体の入院患者さんの看護をする部門です。

病棟では、PD導入手術をした患者さんに、限られた入院時間の中で手技指導をします。ご高齢でなかなか手技を習得できないなど、様々な患者さんに対して試行錯誤する病棟のスタッフの努力を目の当たりにしました。

PD外来では療法選択時に患者さんの情報がしっかり得られています。病棟と外来で連携して情報共有ができれば、患者さんにも私達にもプラスになると思います。記録を見るだけではわからないこと、患者さんのちょっとした「こんなこと、あんなこと」がわかれば、病棟での会話や指導でも活かすことができます。やはりコミュニケーションが大切ですよね。

PD外来で月に2回カンファレンスがあります。ドクター、PD外来の看護師、管理栄養士にソーシャルワーカー…そこに病棟スタッフが入ったチームをどうやって作っていくか。急性期の病棟のスタッフは様々な疾患を看るので、それぞれのコアメンバーを作るなど整理できれば、専門性を高められるんじゃないか…。というのが今後の課題ではないかと思っています。



患者さんへのメッセージ

日々大変なことがあると思います。何かありましたら、PDスタッフにどんどん声をかけて話しをしてください。患者さんには本当により良い生活をしてもらえたらと、私たちはただただそう思っています。

PDスタッフへのメッセージ

何をしたら患者さんが一番幸せになれるのかというのを常に考えながら、患者さんやご家族に接することができる医療者でいてくれたらいいなと思っています。

Hospital Topic

患者さんとのコミュニケーションを大切に。



左より 看護師の小松さん・陰山さん
血液浄化センタースタッフ

小松さん「70名のPD患者さんを4名のスタッフで看ています。ご自宅で過ごしたい方、お仕事を今までどおり続けたい方もPDを選ばれています。患者さんとの会話を日々大切にしています。」

陰山さん「患者さんが感染など何事もなく無事に帰っていただければという思いでやっています。」

五十嵐先生「PD担当看護師さんは透析患者さん全員と十分なコミュニケーションをとり、HDも診ています。治療や患者さんのことをよく理解していますね。彼らがいるからPDができていると思います。」



公益社団法人　北海道勤労者医療協会
勤医協中央病院
札幌市東区東苗穂５条１丁目 9-1
TEL　011-782-9111（代表）